



導入事例

IPU・環太平洋大学の場合

環太平洋圏の若者に国際的な教育の機会を提供し、次代の人材育成を目的として2007年4月に創設された環太平洋大学。2019年からメディアサイトを導入し、授業の収録はもちろん、2か月後にはスポーツのライブ配信をスタートされています。そうした画期的な活用方法など、運営管理を担当されている事務局の大賀課長とサッカー部清水コーチにお話を伺いました。

ライブやオンデマンド配信も自在、 授業・スポーツ・イベントの3分野で活用 ～新施設「DISCOVERY」はじめ、全学に計6台のレコーダーを導入～

「どこにもない大学」を目指して

本学は、2007年4月に「どこにもない大学」を目指して開学。学生ひとり一人がそれぞれの志を抱き、その可能性に挑戦できるようサポートし「4年後に責任を持つ」ことをキャッチフレーズにしています。

「教育とスポーツの融合」を教育理念として掲げているのも大きな特徴です。スポーツの中で受け継がれている精神、例えば目標に向かって努力する姿勢やチームワークなどを教育の中に取り込むことで、学生は社会に巣立った後も本学で得たそれらを活かせると信じるからです。指導者はプロやオリンピックなど日本スポーツ界のトップクラスが揃っており、部活は18クラブの殆どがインカレに出場しています。

新校舎建設に伴いメディアサイトを導入

2019年に建築家・安藤忠雄氏の設計で新施設「DISCOVERY」が完成しました。本学が追求している学びを高める空間・設備であり、そのコンセプトとして非認知能力の育成、つまりコミュニケーションやプレゼンなど計測できない非認知能力を育てることを目的としています。普通のタイプの教室はなく、「ラーニングラボ」「プレゼンテーションラボ」「ディスカッションラボ」「IPUスタジオ」といった、スピーチコンテストやビジネスプランコンテストなど、学生のプレゼン力・企画提案力を育むためのフィールドとして目的ごとに特化しています。

この「DISCOVERY」設備に、今後のデジタル化を考え、情報の共有や映像・音声のコラボレーションが不可欠でした。そこで新しい映像配信システムとして、内田洋行さんにメディアサイトを提案いただき、教室に据え置き型を4台、「IPUスタジオ」やスポーツ大会での活用にも搬型を2台、計6台導入しました。

教室の一つ、「プレゼンテーションラボ」は学生のプレゼン映



環太平洋大学
事務局 情報システム課 課長
大賀 吉功 様



環太平洋大学
サッカー部 コーチ
清水 健太 様

像を収録し、それを再生して本人や他の学生、先生も交えて意見交換します。従って、映像がきれいに収録できることが大前提でメディアサイトが適しているということになったわけです。また、ライブによるリアルタイム配信もでき、録画したものを簡単にプレビューできる点も魅力で、学生のプレゼン能力の向上にも役立っています。画面も2画面あり、人物とPCのスライド資料などが同時に見られて使い勝手も良いと思います。

本学では学生はパソコンを各自で用意しますが、PCだけでなくスマホやタブレットでも視聴できる点も便利です。そして、Dropbox™のライセンスを取得しアカウントを全学生に支給していますので、学生同士、先生とも資料などが共有できます。それに加えメディアサイトで授業を録画し、自宅や寮で復習用に活用すれば、学力の向上に加え、欠席者もその録画を視聴して自宅学習することがやりやすいというメリットもございます。スポーツに注力した大学ですので、大会で欠席することで学生が授業内容に遅れがでることがないようにしたいという目的もありました。

また、管理者によるスケジュール収録に加えて、先生方にとって、ボタンを押すだけで授業を簡単に手動収録ができるのは大変便利



Mediasite Mobile Recorder を持ち込んでスタジアムでのライブ配信

です。ボタンを止めれば自動的にアップロードされ、収録ミスがないのも喜ばれています。使い方が複雑ではないので1度覚えてしまえば楽だと好評です。現在は、先生が収録したい授業のみを収録。Mediasite 配信システムと Google アカウントは連動しており、学生は約3,200人全員がログインすれば視聴でき、誰がログインしたかもわかります。また、視聴後に課題を提出することで出席扱いとなります。

スポーツ分野での新しい活用方法

本学でのメディアサイトの利用方法としては、授業の収録だけでなく、学内イベントの収録も多く、地方で入学式に来られない保護者に ID を渡して式典などをライブ配信したり、オンデマンドで視聴していただいています。また式典だけでなく、スポーツの試合にも活用しています。ですから、メディアサイトの使い方としては授業・スポーツ・イベントの3分野があげられます。

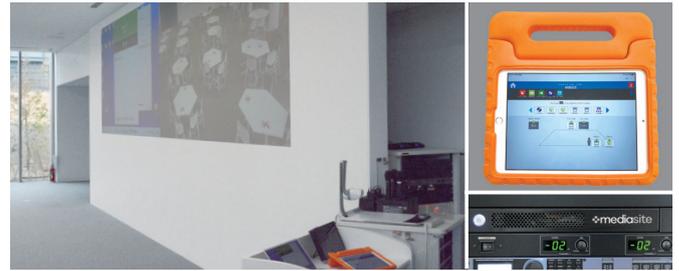
新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、サッカーを始めスポーツの大会は無観客で行われるようになりました。それを多くの人に視聴してもらうためライブ配信を考えた時、YouTube しか手段がなかったのですが、メディアサイトのレコーダーが活用できることに気づきました。これは非常に新しい試みだと思えます。

YouTube ではアーカイブとして試合が残ってしまいこちらの戦略が研究されてしまいます。メディアサイトなら、ライブ配信を行いながら外部からは視聴できないようにしつつ、アカウントを持っている自分たちはいつでも見直すことができます。1つの動画をいろいろな使い方ができて、画質が良いので見やすいというメリットもあります。

外に持っていくデメリットとしては、有線ではないと厳しいということ。無線も不可能ではないですが、途中で途切れるリスクがあります。スタジアムには有線があるので、事前に接続をチェックし、失敗のないよう備えます。

本学では学生たちがスタジアムを抑えたり運営も手掛けます。それによって、スポーツマネジメントの勉強につなげていきたいと思っています。学生たちがインカムを付けて進行し、オーロラビジョンに映像を流したりパワーポイントで選手紹介を流すなど、Jリーグと同じようなことを学生主体でやっていることを見てほしいという思いが、ライブ配信するきっかけにもなりました。ライブ配信した

です。ボタンを止めれば自動的にアップロードされ、収録ミスがないのも喜ばれています。使い方が複雑ではないので1度覚えてしまえば楽だと好評です。現在は、先生が収録したい授業のみを収録。Mediasite 配信システムと Google アカウントは連動しており、学生は約3,200人全員がログインすれば視聴でき、誰がログインしたかもわかります。また、視聴後に課題を提出することで出席扱いとなります。



Mediasite Recorder を設置した AV 教室。複雑な操作も AV 制御システムの「コデマリ」のお陰で操作が簡単に

右上：内田洋行 codemari (コデマリ) 右下：Mediasite Recorder

後は、Dropbox™ にそのまま入れて保存しておくことで、学生や保護者も見ることができます。

より多様化する活用方法

サッカー以外でも活用している部活は多く、2020年にダンス部の発表会を無観客で岡山市民会館で開催し、ライブとオンデマンド配信の両方を行いました。2022年早々には、岡山県のサッカー協会とコラボしてカンファレンスを行います。指導者ライセンスを持っている人たちにに向けた講演ですが、コロナで大人数の人が1か所に集まれないので、会場を分けてメディアサイトを使ってライブ配信を行います。こうしたコロナの影響は少なからずあって、もし、メディアサイトがなかったら録画しておいて別の時間に授業をするなどの方法しかなかったかと思うと導入はタイムリーでした。

本学としても、スポーツやイベントなど、地方でもこうした充実した機材で新しいことをしているというのを中央に発信できるのが強みです。

現在、基本的に学生はログインすればコンテンツを見られるのですが、資格試験のようなコンテンツは有料制にしています。ショーケース、チャンネルというシステムを活用すると、申し込んだ人にアカウントを渡して視聴してもらい利用者を限定できます。今後はこうしたピンポイントの活用も増えるのではないかと思います。

システムの導入・整備を担当された株式会社内田洋行の担当者様



株式会社内田洋行
高等教育事業部
西日本営業部
高等教育コンサルティング課 課長
長谷 祐一 様



株式会社内田洋行
高等教育事業部
西日本営業部 次長
兼 ICT 営業課 課長
植村 俊之 様

メディアサイトを推薦したポイントは、まず事例が豊富だという点です。いろいろなシステムがある中で、多くの学校が採用されている実績は大きいと思います。また、システマ的には連携性が非常に高いといえます。既存のLMSやZOOM、Microsoft Teamsといった動画配信やコミュニケーションツールにも対応し、録ったものがそのまま連携できる有用なシステムです。とりわけ環太平洋大学様は、動画のライブやオンデマンド配信などを積極的に行われる方針でしたので、それが手軽にできる点でメディアサイトが最適でした。さらに、当社の「codemari (コデマリ)」を併用していただくことで、AV機器の操作がより簡単に。タブレット端末にインストールしておくだけで、例えばカメラや映像投影、サウンド、照明や空調の設定までこれひとつで操作できます。また、無線対応プレゼンテーション機器「wiviar® (ワイビア)」は無線LAN経由で情報共有が可能に。こうした設備は先生方の煩雑な作業を減らすと同時に学生さんの学習への好奇心を刺激するものと思います。